

## 小学部第1・3・4・5学年合同 音楽科 学習指導案

日 時 令和4年9月20日（火曜日）3校時

場 所 音楽室

指導者 T1：武田幸美 T2：藤田由樹

T3：坂本由起子 T4：落合久貴子

### 1 題材名

「いろいろなリズムを歌に合わせて楽しもう」

### 2 題材の目標

- (1) ラテン打楽器の音色やリズムと「いろんな木の実」（西インド諸島民謡）の曲想との関わりに気付くとともに、友達や教師と一緒に歌に合わせてリズム伴奏する技能を身に付ける。
- (2) 楽器の音色やリズムの特徴を言葉や身体の動きで表現することに楽しさを見いだしながら、歌と一緒にリズムを打つ時の合わせ方について思いや意図をもつ。
- (3) 楽器の音色やいろいろなリズムが重なり合う表現に関心をもち、友達や教師と一緒に楽しんでリズム伴奏のアンサンブルに取り組む。

### 3 題材の評価規準

知識・技能	ラテン打楽器の音色やリズムをお互いに聴き合いながら、2種類の旋律で構成された歌の形式を理解してリズム伴奏をしている。
思考・判断・表現	楽器の音色を擬音語で表したり、リズムの特徴に単語や動作を当てはめたりして、リズム伴奏の練習方法や歌詞のイメージを生かした演奏形態を工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	楽器の音色や奏法、各リズムの特徴などに興味をもち、自分から友達や教師と関わりながら、拍を感じて歌ったり相手の音に注目して楽器を鳴らしたりしている。

### 4 児童と題材

#### (1) 児童の実態

##### ア 眼疾患名及び視力、視野等に関わる見え方の特徴

児童・学年	性別	遠距離視力	近距離視力	最大視認力	備考
A・1年	男	(0.05)	(0.08)	(0.9/5cm)	発達緑内障、羞明
B・3年	女	(0.02)	(0.02)	(0.15/2cm)	角膜混濁、羞明
C・4年	女	0	0	0	先天性無眼球
D・5年	女	(0.05)	(0.05)	(0.3/3cm)	小眼球、羞明

##### イ 主な学習状況

本学習グループは、小学校に準ずる教育課程の児童2名（A・B）と、各教科等を合わせた指導を含む教育課程の児童2名（C・D）から成る。

児童Aは、曲の題名や歌詞の内容を自分の生活場面と結び付けて楽しんでいる。リズム活動では、手足の協応動作で身体の動きに課題はあるが、両手を同時に動かす拍打ちが徐々にできるようになってきた。児童Bは、指示をよく聞き、教師が提示する目の前の課題に興味・関心をもち進んで取り組んでいる。既存の知識や経験を用いて音楽に対する思いやイメージを適切な言葉で表すことに課題はあるが、身体表現で曲想を捉えることを得意

とする。児童Cは、音楽遊びを通して、音色から楽器の名称を言い当てたり、範唱を聴いて歌詞をつぶやいたりして音や音楽に親しんでいる。合同学習では、教師の説明や友達の問い掛けといった周囲の環境を把握するために、第三者の仲立ちを必要とする。児童Dは、音への感性が鋭く、旋律やリズムをよく捉えて音楽を楽しんでいる。他者を意識する気持ちが強く、合同学習では周囲との関わり方に課題はあるが、個別学習では自分のやりたいことや気持ちを積極的に発信している。このように、音や音楽への関わり方がそれぞれ異なる4名の児童は、この合同学習を通して、個別学習では体験できない友達との学び合いの機会や役割を果たすことでの達成感を得ている。

## (2) 題材観

本題材は、ラテン打楽器の特徴的な音色によるリズム伴奏付きの歌「いろんな木の実」（西インド諸島民謡）を教材として展開する。本教材の南国風の曲想は、児童に新鮮な感覚をもたらし、いろいろなリズムパターンの演奏に挑戦する姿勢や、拍を感じて歌にリズム伴奏を合わせる力など、アンサンブルに取り組むうえで基礎となる資質・能力を育てるのに適している。前題材の「拍によってリズムをかさねて楽しもう」で身に付けてきた、「拍」をベースとした簡易なリズムパターンが重なり合う感覚を、本題材ではさらに豊かに発展させ、それらを表現するための力を伸ばしていきたいと考える。これは、特別支援学校学習指導要領小学部音楽科のA「表現」におけるア「歌唱」とイ「器楽」、[共通事項]のア「音色」「リズム」「拍」と「くり返し記号」に関する内容から成る。また、本題材は、各児童の自立活動の要素「人間関係の形成」と「コミュニケーション」（児童A・B・D）、「身体の動き」（児童C・D）を含み、習得したリズムの応用や、他地域の音楽との比較、発音原理を真似た手作り楽器の制作といった様々な活動への発展性をもつ。

## (3) 学習指導における留意点

### ア 具体物の操作

歌の特徴をつかむ段階では、曲の構成を意識しながら見通しをもって歌うように、歌詞に登場する4種類の果物の模型を触ってイメージを明確にする場を設けたり、果物のイラストカードを旋律の構成に合わせて提示したりする。また、2小節1フレーズで構成される2種類の旋律（のびやかなAと歯切れのよいB）の対比を拍によって感じ取るように、カラー指揮棒を用いて拍打ちしたり縦に振ったりしながら歌うなど、歌と拍を結び付けるための音と身体の協応動作を取り入れた活動を設定する。

### イ オノマトペ（擬音語・擬態語）と単語のリズムの活用【核になる体験】

本題材で重視する「核になる体験」（6ページ参照）として、「拍」から「リズム」を体得していくことができるように、楽器と音色を一致させる擬音語を用いた音当てゲームや、いろいろなリズムパターンに児童が好きな物の単語を当てはめて楽器を操作する活動を設定する。言葉のリズムから音楽的なリズムを自覚するように、音色を「ギーギー」や「シャカシャカ」などの好きな擬音語で表すよう促したり、児童の実態に合わせた記号や立体で表した図譜でリズムを視覚化したりし、「核になる体験」の枠組みを強化したい。

### ウ 主体的に学習のゴールに向かう環境づくり

拍によって曲想を感じ取り、ラテン打楽器の音色やリズムの特徴を体験する過程から、児童がそれぞれの視覚やリズム表現の実態に応じて楽しさを実感するように、4名の教師

が個々に合った支援を同時に行いながら一緒に練習や生演奏をする人的環境となる。また、児童が見通しと期待感をもって学習に向かうように、席を立てて接近視するための板書の形式の統一や振り返り場面での発表形式の固定化、導入での児童の気付きを生かしたためあての設定などを行う。さらに児童の学びが相互に深まるよう、教師とのペア活動や、友達との相談タイム、拍打ちリレーやリズムリレーによる集団練習、相互評価の機会などの関わりの場面を意図的に設定する。

## 5 指導計画

総時数 4時間

小題材名	主な評価規準 【評価方法】	時数
ア 歌のとくちょうを感じよう	<b>態</b> 歌詞に出てくる実やラテン打楽器の音色に興味をもち、拍にのって楽しく歌おうとしている。【発言内容、行動観察】	1
イ リズムばんそうをしよう	<b>知</b> 担当するリズムを、歌に合わせてフレーズの初めから終わりまで打ち続ける。【行動観察、演奏聴取】	2
ウ 音色をくふうして合わせよう	<b>思</b> 音色やリズムと曲想との関わりについて考え、どのような順番で打楽器のリズム伴奏を入れるかについて思いや意図を持っている。【発言内容、行動観察】	1 本時

### 【板書計画】

いろいろなリズムを うたにあわせて たのしもう

まとめ

児童A (※楽器の奏法やタイミング)

児童C (※味わった音と感触)

児童B (※注目した音やフレーズ)

児童D (※旋律 A と B での演奏の違い)

A — B — 1 (リズムカード) — A — B — 2 (リズムカード) — A — B — 3 (リズムカード) — A — B — 4 (リズムカード) — A

めあて

Bの(じゅんばん)をきめて、たのしくえんそうするには？

※発問：「歌に合うように、どんなことに気を付けてどんな工夫をすれば、楽しくなるかな？」

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

ア 担当する打楽器の音色やリズムの特徴を歌詞や果物のイメージと結び付け、歌に合わせてリズム伴奏を工夫する。

(2) 評価

ア 本時の評価基準（具体的な児童の姿と目標を実現するための手立て）

観点	十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）
思考・判断・表現	歌に合わせる際に、旋律を聴いて拍を感じたり、他のリズムパートなどの周りの音をきっかけにしたりして、旋律AとBの部分の違いを生かしながらリズム伴奏を工夫している。	歌に合わせる際に、同じリズムパートの音に注目したり、教師の合図をきっかけにしたりして自分の出番が分かり、旋律Bの部分では順番を守ってリズム伴奏を楽しもうとしている。

イ 評価方法【活動2、3：発言、行動観察 活動4：演奏、身体の動き、発言】

(3) 個別の目標（※本時のねらいを達成する過程で、個々に育てたい資質・能力に関するもの）

A	ア 友達の発表をよく聞いて自分の思いを言葉にしたり、自分と同じリズムを打つ相手の音やタイミング、体の動きなどに注目しながらリズムを演奏したりする。
B	ア 担当する楽器のリズムに合った果物を選び、歌の旋律や他のパートを聴きながら、体で拍をとって繰り返しのリズムパターンを演奏する。
C	ア 曲の感じや合図から自分の出番を感じ取り、拍に合わせて「ぼんぼこ」などの自分の言葉を当てはめながら、教師と一緒に打楽器を鳴らしてリズム伴奏を表現する。
D	ア 担当する楽器の音色やリズムと果物のイメージを結び付けて、旋律AとBの各部分で強弱などを変えながらリズム伴奏を工夫する。

(4) 展開

ア時間	学習活動	イ 教師の働きかけと留意点	ウ 準備物
10分	<p>1 前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムパートの確認</li> <li>・めあての確認</li> </ul> <p>※演奏ペア：            児童AとT4            児童BとT2            児童CとT3            児童DとT1</p>	<p>(ア) 楽器の音色やリズムを意識しながら演奏するように、リズムパートごとに発表し合う場を設ける。</p> <p>(イ) お互いのリズムや演奏のポイントを全員で共有するように、それぞれのリズムカードを提示しながら説明する。</p> <p>(ウ) アンサンブルの面白さが分かるように、授業者による範奏の動画を提示する。</p> <p>(エ) 前時のアンサンブルとリズムの特徴を思い出すように、擬音語や単語で口唱歌風にリズムパートを合わせてから演奏するようにする。</p>	<p>果物模型            とらふ            電子黒板            iPad            打楽器            スティック            リズムカード</p>
<p>Bの（じゅんばん）をきめて、たのしくえんそうするには？</p>			

20分	<p>2 旋律Bとの合わせ方を考える。</p> <p>3 リズム伴奏の仕方を工夫する。</p>	<p>(オ) <input type="checkbox"/> 旋律 B の演奏の順番を工夫するように、4種類の果物や歌詞のイメージについて意見交換する場を設ける。</p> <p>(カ) 自分の楽器の音色やリズムがどの果物の歌詞に合うと思うのか、理由を含めて話すように、果物の形や歌詞の様子などのよりどころとなる情報を示す。</p> <p>(キ) 曲全体の見通しをもって練習するように、曲の構成をカードで示したり、既習の学習内容を掲示したりする。</p> <p>(ク) 自信をもってリズム伴奏をするように、拍を打ちながら一緒に歌ったり、児童と交代でリズムを打ったりするなどの練習方法を工夫する。【核になる体験】</p> <p>(ケ) 自分の番でタイミングよくリズムを打つように、児童のiPadに入れた範奏動画を個別に活用しながらパート練習する。</p> <p>(コ) <input type="checkbox"/> 音色やリズムの重なりを意識して合わせるように、他のパートのペアと交流しながら練習することを提案する。</p>	iPad 打楽器 構成カード 木拍子板
15分	<p>4 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの演奏</li> <li>・感想発表</li> </ul>	<p>(サ) 練習の終わりや指示を聞くタイミングに気付くように、合図となる旋律をキーボードで弾く。環境の変化に敏感な児童に対しては、音源を再生する前などに個別に声掛けしたりカウントを取ったりするなど安心感をもって学習に参加できるようにする。</p> <p>(シ) 旋律Bで自分の出番が分かるように、数拍前に果物の名前を話す。</p> <p>(ス) 前時の学習と旋律Bで順番に演奏したことを比べるように、まとめの発問を工夫する。</p>	キーボード リコーダー等

※展開の中の太枠部分は、児童から出ると予想されるめあての文言を示す。

#### (5) 評価

ア 児童 … 6(2) 評価基準を基に評価する。

イ 教師

(ア) 音符や記号のリズム譜、擬音語や単語の当てはめ、身体表現や拍打ちなどの多角的なリズム習得の方法が、歌とのアンサンブルを楽しむことにつながったか。

(イ) 児童が自信をもって演奏したり、歌に合わせてリズム伴奏しようとしたりするための教師の手立ては適切であったか。

<資料>

【核になる体験】

ア 内側の図

表現活動における【核になる体験】を設定する際の枠組みを示す。

本題材では、「拍」から「リズム」をより効率的に着実に体得する過程を重視し、その過程で取り上げる活動を【核になる体験】として設定した。

イ 外側の図

鑑賞活動における【核になる体験】を設定する際の枠組み、及び音楽的な見方・考え方を働かせるためのサイクルを示す。

ウ 外側の図における相互関連の一例

以下の(1)から(3)の事項が図の矢印に対応している。

(1) 「音（音楽）」から「イメージ」へ → 音楽を形づくっている要素の知覚

(2) 「イメージ」から「言葉」へ → 感受したイメージの自覚化

(3) 「言葉」から「音（音楽）」へ → 表現の工夫

